

高齢・福祉施設建築
トレンドとポイント

2011.8

セミナーダイジェスト

サービス付き高齢者向け住宅事業化シンポジウム 6月10日(金)

サービス付き高齢者向け住宅創設と

「高齢者等居住安定モデル事業」対応の実際

地域包括ケアの実現の大きな柱である「サービス付き高齢者向け住宅」と「24時間地域巡回・随時訪問サービス」が創設。今ゼミナーでは、まず高齢者住まい法改定と「サービス付き高齢者向け住宅」事業化の実務をテーマに（株）シルバライフネットワーク代表取締役 向井幸一氏が講演。



向井 幸一氏

始めにサービス付き高齢者向け住宅整備事業は5月30日に募集を開始、説明会は5月18日から全国で開催、東京会場は15分間で満室の状態であった。この制度は、医療介護住宅が連携し安心できる住まいの供給を促進す

シンポジウムでは、「サービス付き高齢者向け住宅のサービス構築と訪問診療 24時間地域巡回の「コラボレーション」の有効性を探る」と題して4名の講師がそれぞれの立場で意見を述べた。



中村 哲生氏

まず、オーシシ株式会社代表取締役 中村哲生氏が訪問診療の立場から08年の診療報酬改定のポイントを示し、有料老人ホームなどの居宅系を退院先の施設と位置づけ、新たに施設向けの訪問診療料が算定可能となったこととでます。次に死亡場所の内訳と一言及。次に死亡場所の内訳推移や看取りの場所の推移グラフなどを示し、在宅での看取りが増えることを示唆。また、現在の施設での看取りの課題や問題点もあげ解説。在宅医師の需要希望を述べ、都会が容易で地方は困難。医療機関といろんな課題を解決しながら施設と医療の看取りの充実を考えていきたいと締めくくった。



林 義明氏

次にゴールドトラスト株式会社常務取締役 林義明氏が在宅ケアの立場から講演。定期巡回随時対応型訪問介護看護の大きな特徴は1.24時間サービス2.緊急時の随時対応3.看護サービスの提供4.包括的なケアと請求をあげた。次に看護師を常駐「ナースケアホーム」し、平均介護度3.69の高専賃の実例を紹介。特に訪問看護介護・通所介護の間にある隙間、インフォーマルな部分を重視して生活支援生活看護クリンキーパー！介護支援などをおき運営している。ナースケアホームでの看護師の役割は、医療的な対処、判断を含め、医療者の視点から入居者様の生活全般をサポート支援することが大切とした。



水野 直樹氏

次にコスモプラン株式会社代表取締役 水野直樹氏が建築設計の立場からサービス付き高齢者向け住宅の応募は、今までの着工ではなく着手（工事請負契約）と登録がポイント。サービス付き高齢者向け住宅は、事業者にとって自由市場トレンドであるがリスクもあることを把握して欲しい。リスクは、1.採択と補助金はい別）都道府県政令市中核市による登録が必要、2.（制度と予算）予算の半年度主義、3.（過当競争）需要バランスをあげ説明。居住安定推進事業による補助金と介護施設の緊急整備による交付金（公募があれば）の組み合わせも助め詳しく解説。ご参加の方から「もたたくさんのご質問を頂き、各講師も丁寧に答え、シンポジウムは大盛況の中に終了した。」

（文／石塚 なほみ）

